

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193700051		
法人名	医療法人交雄会		
事業所名	グループホーム桜香 もみじ (1F)		
所在地	北海道伊達市館山町36番地5		
自己評価作成日	平成29年1月27日	評価結果市町村受理日	平成29年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193700051-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193700051-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 29 年 2 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアに重点を置き、個々の表情などの観察を怠りなく声として聞こえないニーズにも気づける様努めている。また、入居者様それぞれに合った見守り、声掛けの実践で、自分らしく生活して頂ける環境づくりやアットホームな雰囲気づくりを心掛けています。つづユニットでは、明るく環境を目指し笑いの絶えない雰囲気づくりを念頭に置き、穏やかな生活をして頂ける様努めています。入居者様ひとりひとりに合った声掛け、対応支援を心掛け、行事などを通して季節感を味わっていただいています。また、平均年齢が高いので、訪問看護と連携し健康維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム桜香は医療法人を経営母体とする開設4年目の事業所です。事業所の基本理念、ケア理念のもと「ありのままに」「その人らしく」「尊厳ある」暮らしを目指して支援に努めています。医療連携体制が取れており、利用者や家族の安心に繋がっています。自然豊かな地で利用者にとって穏やかでゆとりある生活の場であることを目指して職員同士がお互いに助け合い、笑顔あふれる歓びと生きがいを感じられる環境づくりに努めています。また、地域との連携や家族との交流を図り、地域の一員として暮らせる場作りに取り組んでいます。管理者は、運営に意欲を持ち、利用者、家族、地域との連携の強化に取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に設定された当施設の独自の理念を、職員全員で共有すべく、午前中の申し送り時に唱和して意識付を行っている。	事業所理念である「安らかで穏やかな生活、喜びと笑顔ある生活、地域の一員として存在価値を深め、自立した生活を共に築いていきます。」を掲示し、毎日の申し送り時に唱和し支援に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入していて、職員が廃品回収に参加するなどしている。開設年度は祭りを開催し地域の方々にも参加して頂いたが、力み過ぎて主旨から逸れてしまった為、今年度は家族交流会としている。地域に溶け込むことがなかなかできずにいる。	自治会の総会に参加し、自治会行事案内に沿って、利用者と職員が協力参加しています。幼稚園の園児訪問は風邪のため中止になりましたが、来年度も計画予定です。	幼稚園との相互交流、畑ボランティアと利用者の共同作業、外での楽しみとなる地域交流を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会を得ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況がわかりやすい写真付きの行事報告など書面の提示をし、提案やご意見を頂き、サービス向上に助言をいただいている。	運営推進会議は、自治会長、家族代表、市担当者、民生委員、幼稚園理事長、運営法人の総務課長、管理者、計画作成担当者などが参加しています。2か月に1回定例化され報告や意見交換が行われサービス向上に活かしています。	運営推進会議については、少しでも多くの家族が関心を持てるよう、全家族に案内、議事録の送付を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議にも出席頂き、当施設の状況を報告している。必要に応じて、空き状況などもお知らせし協力関係を築いている。	市担当者とは、運営法人の課長や管理者が書類報告時等に課題や支援等の相談等を行っています。運営推進会議出席の際には情報交換や意見を得ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないことを基本にケアを行っている。帰宅願望のある入居者さまの安全のため、非常口に防犯ブザーを取り付けて、開錠して単身で外出してしまうことが無いよう予防している。また、1階ということもあり玄関は施錠し外部からの不審者の侵入に備えている。	身体拘束の排除について、マニュアルの整備、ケアの実践に向けて研修を行っています。1階のユニット入口は日中も施錠されていますが、職員の見守りの下、利用者は自由に出入りしています。	自分の意志で開けることの出来ない玄関等の施錠について、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫をし、身体拘束排除に向けたさらなる取り組みを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	何をして虐待とするかも含め、疑わしいことに気づきがあれば、申し送り時に話し合っている。職員がその後も経過観察を行い、事実があれば報告する体制でいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市内に、権利擁護、成年後見人制度に関して相談できる専門家を確保している。知識を得たり、ご家族への紹介の対応可能である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、書面の内容は具体的にわかりやすく行っている。ことに、料金に関する説明では、当事者の状況に見合った内容を提示し、支払などに不安がないようにしている。説明の時は別室で十分な時間をとって行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の代表者を運営推進会議に招き、意見を伺ったり助言をしていただけるようお願いしている。ご家族の来訪時には、できるだけ職員から声掛けするように努力している。	毎月発行の桜香だよりと、担当者からの手紙で利用者の生活状況や様子を伝えています。家族来訪時や電話でも利用者や家族の意見や要望を把握するように努めて運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ね年に2回程度ユニット会議を、二か月に1回の両ユニット会議を行っている。管理者は議事を進行するのみに留まらず、職員の意見を聞くように努めている。1階は朝、夕の申し送りをしっかり行い、入居者の状況や改善点の確認を周知している。いまのところ充分と考えている。	管理者は月1回のユニット会議、2か月に1回の合同会議で職員の意見や要望を取り入れています。また、年1回職員アンケートを実施して面談を行っています。運営母体の担当者も随時意見、提案を聞き運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の大半がパート職のため、個々の事情を加味した勤務形態の配慮や、有給休暇の取得、燃料手当の支給などの手当での充実など、職場環境の向上に努めている。また、職員の努力や勤労に感謝し、そのことを伝えるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部や外部の研修の機会があれば、状況の許す限り受けられるよう努めている。能力に差があるのは当然なことであるので、お互いに補い合える環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	前任の管理者は伊達市の介護支援専門員連絡会に所属しており、同業者との交流の機会を持っていた。現任者は洞爺湖町ケアネット会議の一員であり、同業者との交流を持ちながら、講演会の準備委員も務めるなどの活動を通じて勉強している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人及びご家族の見学時や、入院されている場合には病室訪問で希望や意向を伺っている。経歴など伺いながら信頼関係を築くように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の事情により入居されるケースが多いので、ご家族の不安軽減には特に配慮を怠らないよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申込みをされても、即入居できる環境にない場合が多く、入居までの期間の処遇の相談支援(他所の入居や入院、在宅サービスの紹介など)にも対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、できることは手伝っていただき、一緒に生活している感を持って頂ける様努めている。昼食は職員も一緒にいただき、味やメニューへの感想、世間話など行うようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活記録の開示、面会時の情報提供に加え、必要を感じたときにはこちらから来所お願いし、入居者の不安軽減やご家族との絆の仲立ちを心掛けている。ご家族に配慮するあまり、立場が曖昧になったケースがあり、反省しリセット行っている。それぞれの立場で正しく役割を果たすことが大切と学んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係の人の来訪は大歓迎であるが、減多には訪れることが無い。希望があったり情報があつたりしたときは、こちらから行動をおこすことに異存はない。	利用者の馴染みの美容室へは家族や職員が同行支援を行っています。ドライブ時の自宅訪問や正月、お盆の外泊等機会を捉えた支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	9人の他人が共同生活をするなかで、事故や事件につながることはないよう、良い関係が持てるよう、座る場所や提供の順番、薬の調整(医師による)など配慮を怠らないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方の状況把握や、その後の処遇に関してご家族の相談支援を行っている。たとえ、当施設に戻らないとしても、入居者やご家族にとってより良い方向性が見つかるよう支援している。場合によっては病院に訪問して状況把握に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所まえには、ご本人ご家族双方に希望や意向を伺っている。これまでの生活歴や趣味なども、書面としていただいている。	入浴などリラックスした時などに、丁寧な対応による傾聴、利用者の生活歴や価値観などから言葉の深い意味までひも解くよう努め、利用者の意向の把握に努めています。	利用者の意向の把握を職員が日々意識し、アルバム等を利用して本人の今の希望を聞くケアに努めることを期待します。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入浴などのリラックスした時間に、過去の生活歴などひも解き、寄り添いかたをさぐりながらケアさせていただく様努めている。ご本人の思いは大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人ご家族以外の、入居前の病院や事業所からの情報収集、心身の状態の記録表などからも多面的に状態の把握に努め、今後のケアに役立てている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活記録、家族との情報共有ならびに定期的な担当者会議などで、入居者への必要な支援を検討した結果を踏まえた介護計画を作成している。	センター方式を使いアセスメント行っています。利用者、家族の意向をふまえて担当職員や職員の気づき等、サービス担当会議で検討し介護計画を作成しています。介護計画は3か月または6か月毎に見直しを行い、状況変化に合わせた支援ができるよう作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録やバイタル表、排便記録などをもとに申し送り時や担当者会議にて、ケアの方法や実践、結果を話し合い介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の変化に寄り添ったケアを優先している。そのことによって、計画書との不具合が生じることがあるが介護においては、即実行することが机上での計画より重要としている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者それぞれに地域資源を把握していただいたりなどの支援にはなかなか追いつけないでいる。北海道では暖かい地域なので、畑の作業などが可能なように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を出来るだけ継続している。ご本人ご家族にとっても安心、納得が得られる。受診の支援はご家族と相談の上、必要時に行う体制がある。また、ご家族の希望がなくても、こちらで必要としたときには、同意を得て同行させていただいている。	入居前からのかかりつけ医への受診は主に家族対応となっています。突発的な受診など状況においては職員が対応をする場合があります。協力医療機関の月1回の定期往診があり、歯科往診では義歯づくりも行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態の把握に困難を感じた時には、訪問看護に相談し助言をうけている。医療機関や医師にスムーズにつなげるための助言は家族にとっても有益となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書で情報提供を行い、必要時は送迎したり移動の介助を行う。ご家族に代わって意向や希望を伝達し、ご家族が病院になじめるよう支援している。また、退院時には看護添書で情報をもらい、安心してせいかつできるよう病院との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りのケアは行っていないこと、医療的処置が生じた場合には退所となることなど、入所時に説明を行っている。認知症の周辺症状によって他者を傷つけかねない状態があれば、改善の方法を相談したり、場合によっては退所となることにもご理解いただいている。	利用者の重度化及び看取り介護に関する指針があり、同意を得ています。利用者の体調について家族に適切に報告し、医師からの病状変化の予測も含め早めに相談や話し合いを行っています。看取りは行っていない為、利用者が安楽に過ごすための病院移行の支援等も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習を受講している。概ね、2～3年に一度は受講を考えている。管理者は定期的に救命講習を受けるほか、上級救命講習も受講している。緊急時の連絡網を作成し、実践においてスムーズに対応できるよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時の避難訓練を年に一度行っている。避難の際には地域住民の助けを必要とするため、運営推進会議の際に、避難訓練の報告とともにお願いしている。	火災の避難訓練は、消防署指導による夜間想定避難訓練を6月に行い、その後の運営推進会議に於いても検討しています。自主訓練として12月に夜間想定で行っていますが、地域住民の参加がありません。	火災外の非常時を想定した災害訓練、職員全員が経験出来る場の設定など、色々な工夫をし、利用者、全職員の防災意識に繋がる取り組みを期待します。また、地域住民の協力を得られるよう呼びかけも期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するため、居室に入室の際や排泄、更衣、入浴などの介助の際には許可を得る。丁寧過ぎず、失礼にあたらぬ声掛けを行う。否定せず、寄り添った対応を心掛けている。	職員が利用者の支援を行う場合は、ケア理念に沿って利用者を尊重しています。特に排泄、入浴介助時などは羞恥心に配慮してしています。一人ひとりの利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛け、支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いかなる状態であろうとも、本人らしさがある、自分を出せる程度の薬の調整としたい。入居者の思いや希望を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	やむを得ない時には職員がわ(事業所)の都合が優先となることもあるが、入居者を優先し、その次に個人のペースを大切にしている。個人からの希望があった際には、出来る限りの対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装に不足があった場合には、可能なご家族には連絡して不足を補っていただき、対応不可能と判断されたばあいには、なんらかの方法で入手したり工夫がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや食材が偏らないように記録、確認をおこなっており、1か月ごとに栄養士に検証してもらっている。盛り付けや後片づけなど出来る方は限られているが、一緒に行って、役割を担っていただいている。入居者には美味しいと喜んでもらっている。イベントごとに特別料理を提供して、偏重にならないようにしている。	一汁三菜、地元の豊富な食材を利用した献立です。利用者は食事の準備や片付けなど、得意なことや出来る事を手伝い、職員と一緒に食事を楽しんでいます。日常的な食事から変化を付けた行事食の提供や、誕生日に利用者の好きな献立作ってお祝いするなど利用者が楽しめるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や看護師からの指示や助言をもとに、それぞれの量や栄養価を配慮している。必要ときには、栄養補助飲料や水分補給のゼリーなど利用するなどの工夫もある。また、正しく提供するために、目見当ではなく量りを利用するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛け、補助介助は必要に応じて行い、毎食後を基本に支援している。治療が必要な場合には、歯科訪問診療につなげ、早急に対処している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	特に、病院から入所されるケースでは、オムツや紙パンツを使用していることが多いが、不必要な場合には通常の下着をつけて頂ける様支援している。ポータブルトイレや尿器などの補助具も有効活用し、トイレでの排泄につなげている。	排泄チェック表を作成して、一人ひとりに合わせた声掛け、誘導支援を行い、トイレでの排泄を支援しています。夜間のみ転倒などの危険性を検討し、安心して使えるポータブルトイレを活用する場合があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は、回数や便の状態も含め細やかに記録している。便秘が原因で起こる疾病や症状にも敏感に対応、話し合いを欠かさず行っている。薬の調整やマッサージ、改善しない時には訪問看護につなげている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	原則、一人ずつの入浴。入浴の曜日や間隔は決めて行っているが、それぞれの状況に応じていつでも変更している。職員全員が対応可能な状態を作っている。夜間は職員が一人しかいないので、夜間の入浴は行えない。	利用者ごとに週2回を目途として、午前と午後で利用者の希望に沿った入浴支援を行っています。入浴時などに利用者の話をじっくり聞き、リラックスして入浴できるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は本人の様子をみて、外出や入浴の後、浮腫の有無などで状況に応じて声掛け誘導行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用での変化などは医師に正確に伝えるようにしている。受診の付き添いは、入居者の状態をよく把握しているものが同行するよう配慮している。服用は医師の指示通りに行い、頓服などの扱いは服用の仕方を詳しく指示してもらっている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を引き出す対応を行い、声掛けの仕方や呼び名なども配慮している。その時どきの状態に応じた的確な対応を心掛けている。役割を担っていたり、気分転換の夕食なども取り入れている。昔ながらの行事は雰囲気作りも欠かさず行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節柄、入居者の状況、流行している感染症等考慮すると、計画を実行できることが少ないが、許される限りは行うように努力しているが、日常的には行えていないのが現状であるが、計画がなくても状況が許せばドライブに出かけたりしている。	一年を通じた外出行事を計画しています。花見、水族館、紅葉狩り等行事での外出やドライブ、夕食、買い物に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本ご家族の管理としていただいている。本人、家族の意向で、ご本人が持つことに問題なく、必要なときには貸し出すことも可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応できる状態にある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活が快適であるよう、掃除は毎日決められた時間に決められた手順で行われている。必要時にも清潔を保つための掃除が行われている。また、換気を行ったり、季節感のある飾りつけなどにも配慮している。	季節感の飾りや手作りの掲示など共用空間に温かみや懐かしさを感じられるように取り組んでいます。ゆったりとした空間になっており、採光と空調、温湿度管理にも配慮した環境になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部での自分の席は決まっている。他にもくつろいで座るソファなどの用意があり、くつろいでテレビ鑑賞などされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、なじみのある家具や装飾品の持ち込みをお願いしている。また、食器や衣類なども新たに購入するのではなく、使い慣れた物の持ち込みをお願いしている。また、購入の際にはより過ごしやすさという観点から助言させて頂き、購入の支援などもしている。	居室にはクローゼットが備え付けられ、利用者は馴染みの家具や生活用品を持ち込んで趣味の物や写真などを飾り、居心地の良い居室づくりに職員も支援を行いながら工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の暖房はパネルヒーターで安全に配慮されている。トイレは3室あり車椅子で入室可能な広さがある。一般家庭用の浴室で手すりの設置がある。居室にはそれぞれ鍵がついていて、プライバシーが保たれる配慮がある。		